



“Pure CS” Project Photo Letter



No. 12, July 2019

今年モンスーン期のCS生産面積はエーヤワディー地域で約1,900 ha、シュエボー県で約1,200 ha。CS生産品種の内訳を見ると、高品質米の「ポーサン・イン」品種が両地区で増加し、シュエボー県ではなんと94%を占めています。現地では「高品質米生産はまず種から」という考えも定着しつつあり、当プロジェクトに対する期待も高まっていると感じます。CS品質の信頼性と安定性を確実にするため、プロジェクトは今後もがんばっていきます。

2019年度シュエボー第1回、第2回普及員研修： シュエボーでも2019年度の普及員研修が始まりました。7月2・3日にはCS生産の基礎技術、イネの生殖生理と品種の形質の講義及び苗床づくりと播種実習。7月23・24日は病虫害防除の講義、普及活動計画の策定及び田植え実習を行いました。研修ではシュエボー県から農業局職員28名に加えて、民間CS生産者13名の参加が得られました。（写真：左から、研修員と集合写真、池田専門家の熱盛的講義、実習では女性普及員も水田の中で大活躍）



シュエボー県でのフォローアップ/モニタリング活動： 今月は2度シュエボーにて研修を実施しましたが、研修の合間をぬいながらその他の活動も行いました。

（写真左から、ビジネスミーティングのフォローアップでは2019年度雨期作CSの買付と販売契約状況の確認と今後の方針を協議しました。地域種子検査ラボ（モンユワ）の施設・検査状況のモニタリング。JICA円借款事業で進める種子センターの起工式現場を視察。プロジェクトは種子センター完成後の運営支援を行う予定です）



エーヤワディー地域モニタリング： 7月9日～12日までエーヤワディー地域のCS生産のモニタリングを実施しました。6県を巡回しながら、田植えが終わった直後のCS圃場視察、CS農家との意見交換、選別機使用方法指導、普及活動状況の確認等を行いました。



「どしゃぶりの中、よききたなあ」と言われ、こちらは恐縮するばかり。

CS農家夫婦と圃場をバックに、たまには自撮り。日本人以外は皆インスタ映える顔

カンジータウンの種子選別3兄弟

作業の合間にプロジェクト配布のマニュアルを読むお姉様方。爪の垢を煎じて誰かに飲ませたい。

田植えも始まり、これからシーズンスタートです。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。
URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)